

4月に行われた全国学力・学習状況調査の調査結果及び、改善のポイントがまとまりましたのでご報告いたします。今回の調査より、学校における教育指導の改善に役立てることが大切と考えます。本校としては、今回の結果を受け止め、生徒一人ひとりにとって「わかる授業」「魅力ある授業」を実践するために、次のような分析をもとに、教職員は、工夫し、改善に取り組んでまいります。



学ぶ・鍛える・共に生きる

教科の調査結果から

国語

- 「知識」「活用」の問題の両方とも、全国の状況と比較して、全体的に高い水準にあるといえます。文法や語句の意味など若干の課題は見られるが、全体的に良い傾向が見られます。また、選択式に比べ、記述式問題に課題が見られ、自ら解答を導き出すことが苦手な傾向です。

数学

- 総合的に見ると、神奈川県や全国の状況より高い傾向がみられます。数と式の単元では、特に良い結果が見られます。

理科

- 総合的には、全国・神奈川県の平均を上回っています。主として「知識」、「活用」に関する問題での差はあまりありませんでした。ただ、記述式問題で不十分な解答が多くみられました。最後まで書こうと努力した生徒の割合が低いと思われる。また、理科への関心はあまり高くなく、「将来、理科や科学技術に関する職業に就きたい。」と思う生徒の割合が少ないです。

生活習慣や学習環境に関する質問紙調査からの抜粋

～ 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。起きていますか。～

- ・ 昨年度と同様に、全国や県の平均の数値に比べて、低い傾向が見られます。ただし、朝食を毎日食べている生徒は、全国、県の両方の平均よりも高いことより、生活習慣に対する意識だけではないと思われる。今後、その原因を検討していきたいと思えます。

～ 自分には、よいところがあると思えますか。～

- ・ 「当てはまる」と回答した生徒は、全国平均を上回る反面、「どちらかという当てはまらない」、「当てはまらない」と回答した生徒の合計が全国平均より高い傾向があります。自信をもって生活している生徒、将来の夢や目標に向けて挑戦している生徒がいる中で、当てはまらない生徒も多くいます。そのような生徒に対して自尊感情の育成をはかる必要があると思われる。

～ 学校の授業以外での学習時間（塾、家庭教師を含む）はどれくらいですか。～

- ・ 全国や県平均に比べて、非常に長い傾向が見られます。特に、平日で3時間以上と回答した者は、全国平均より10%以上上まわっています。予習をする生徒は、全国平均より10%多いが、復習する生徒は全国平均とほぼ同じです。また、学習塾に通っている生徒は、80%近くおり、「学校の勉強より進んだ内容や難しい内容を勉強している。」と答えた生徒が30%程度で、全国平均より10%多く、学習に対する意識の高さが伺われる反面、授業におけるすべての生徒の基礎基本の定着も大切であると思われる。

～ 今住んでいる地域の行事に参加していますか。～

- ・ 県の平均より10%以上多い。また、地域や社会で起こっている出来事に関心があったり、地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある生徒が多い傾向にあります。地域の組織が充実しており、生徒がその中で育成されていることが伺われます。

～ 家の人と学校の出来事について話をしますか。～

- ・ 県の平均とほぼ同じであるが、全国の平均よりやや低い傾向があります。その反面、「家の人は授業参観や運動会などの学校行事に来る。」と答えた生徒は、全国・県の平均より高く、各家庭の学校行事などの意識の高さが伺われます。

今後取り組む改善のポイント

- 授業のはじめにねらいを示し、最後に学習内容を振り返る活動を行います。
- 国語では、基礎的な学力が身につけているので、自分の考えをまとめたり、発言する力を育てる授業を工夫します。また、興味・関心を高め、能動的に活動する中で、思考力・表現力を育成するための手立てを工夫します。
- 数学では、特に応用問題に対するの苦手意識があるので、多くの問題を解きながら自信をつけさせます。
- 理科では、キャリア教育を意識し、日常生活との関連付け、自然現象への関心を高める工夫した授業を目指します。表現力・思考力の向上のため、実験レポートの充実や発表の場を設けるなど、生徒の能動的な学習活動を支援していきます。
- 自分の意見を交換し合う場を設けるなどして、「互いに学び合う姿勢」の育成を目指します。そのため、総合的な学習の時間の充実に取り組んでいきます。
- 小中一貫教育の充実を図り、「9年間で育てたい子ども」の実現に向け取り組んでいきます。
- 学校と家庭・地域の連携をさらに深め、地域行事への参加などを通して、「地域とともにある学校」の事業を進めていきます。